

## IV 介護が必要となる状況について

がん治療の効果がなくなると、がんを治す方向の治療は終了になります。

がんの進行によって体力は低下しても、それまでと変わらない生活を送っていますが、ある時期から、急速に状態が変化していきます。

歩くときに足下がふらつく感じがするなどから始まり、昨日までできていたことが今日ではできなくなるなど、日常生活の不自由さが日に日に増していきます。

こうした変化は患者さん自身が一番実感し“死が間近に迫っている”ことを自分のからだで感じるようになります。

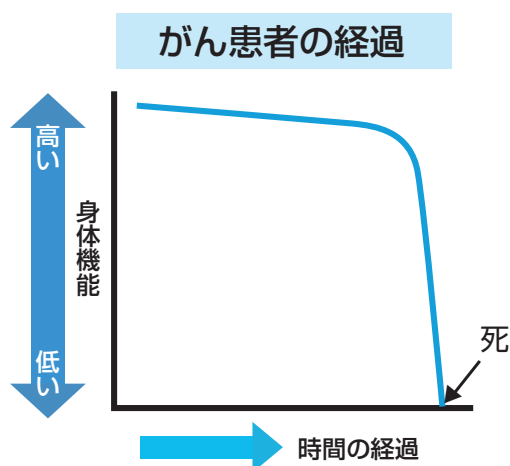


図1 がん患者が亡くなるまでの経過  
(関根龍一：疾患群別予後予測モデル，週刊医学界新聞，第3047号，2013年を改変)  
(参考：Lynn J. Serving patients who may die soon and their families. JAMA. 2001)

**身体機能は、最後の1～2か月で急速に低下します。**

このような時期に日常のさまざまな場面で介護が必要となり、つらさが深まります。

その期間は2週間程度のことが多いです。